

の死亡するもの多く、止むを得ず中途から再び「クローヴァ」を投與したが、之に依て實驗條件は混亂したものとは思はれない。兩群に於ける差異は専ら「ヘスペリン」に歸するものと考えられる。

ビタミンPは血管中毒性紫斑病に有效なるビタミンとして記載されて以來、主として過敏症に對し抑制的效果を種々實驗され、町口氏<sup>(3)(4)</sup>によれば、家兎の Arthus 現象はビタミンPに依て抑制され、人體「ツ」皮内反應も抗原の適當濃度に於ては、ビタミンPを加えた場合に抑制されると云ふ。されば、アレルギー現象と解せられる Koch 氏現象が、ビタミンPに依て抑制されるや否やは豫想出來ぬ事ではないが、本實驗によつて、少くとも B.C.G. の如き弱毒株による Koch 氏現象は相當抑制される事を認めた。

## 5 結 論

ビタミンPは B.C.G. による Koch 氏現象に對し抑制的作用を呈する。

摺筆するに臨み御懇篤なる御指導並に御校閲を賜つた坂口名譽教授、沖中教授、北本助教授に對し滿腔の謝意を表する。

## 文 獻

- (1) 柳澤 謙：紀元 2600 年記念結核豫防及治療醫學講演會講演集第一冊、實驗治療社
- (2) 東辻 修三：醫學研究17卷9號1509頁(昭18.9)
- (3) 町口 久男：醫學と生物學3卷6號189頁(昭18.3) 及 5卷7號424頁(昭19.4)
- (4) 町口 久男：醫學と生物學4卷2號100頁(昭18.7)

### (正 誤)

結核 23 卷 11・12 合併號中 下記の箇所を訂正する。

	(誤)	(正)
P. 1 左 15 行	生とする	主とする
P. 3 左 27 行	壊死並に尖	壊死並に炎
P. 3 右 15 行	純 Biliruillon 液より	純 Bilirubin 液より
	に Bouillon で腐敗菌	Bouillon にて腐敗菌
P. 5 左 19 行	Taffe	Jaffe
P. 5 右 10 行	喀痰 1 個の體積を	喀痰 1 個の體積を
P. 5 右 11 行	2v	2cc